

市民国際プラザ・ダイジェスト

第81号 (2017年10月25日発行)

一地域に飛び出す市民国際プラザ

市民国際プラザでは、自治体や地域国際化協会とNGO/NPO、企業等で連携し、先進的な活動を行っている先への訪問や情報収集をしており、ダイジェストで報告・ご紹介をしています。

○「平成29年度地域国際化ステップアップセミナー in SENDAI」開催報告！

日時:2017年9月22日 場所:エル・ソーラ仙台 28階 大研修室

ソーシャルビジネスを地域ブランドに、復興とSDGs ～地元の強みを活かした持続可能なまちづくりと国際協力の輪～

SDG 11: Sustainable cities and communities

今回は、ソーシャルビジネスと復興/地域活性化、国際社会の課題解決を共に考え、地域のブランド化促進を目指す機会として開催いたしました。

初めに、話題提供として**GRAグループ 新規事業兼海外事業リーダー 渡辺周氏**より『宮城県山元町「ミガキイチゴ インドプロジェクト」』として、ICTを活用したイチゴ生産で震災復興とインドの貧困地域の女性の就労の機会づくりについてお話を頂きました。



事例紹介として、**耕野振興会 石塚武夫氏**より、『宮城県丸森町「ザンビアとまるもりまちの技術協力から、地域づくり」』をお話頂き、偶然にも丸森町へ研修に来られていたザンビアの研修生が飛び入りでご挨拶頂くこととなり、研修生の生の声をお聞きすることができました。

NPO 法人ピースウインズ・ジャパン スタッフ 東村由里氏からは、『島根県邑南町「地域発信の国際協力を目指して～邑南町モデル」』をお話頂き、最後に、**公益財団法人佐賀未来創造基金 副理事長/NPO法人Succa Senca 代表 横尾隆登氏**より、『佐賀県「ふるさと納税を活用したCSOとの連携・協働による持続可能な社会づくり」』をお話を頂きました。

講師の方々によるパネルディスカッションも、終始白熱した議論を交わし、様々な立場の意見や考え方が参加頂いた皆様に「国際協力で地域活性化」を試みる、良い参考になったのではないのでしょうか。

○災害への備えに向けて、多文化共生の視点で、地域でできることを考える

～「平成29年度在住外国人支援のための連携推進会議」～

日時:2017年9月29日 主催:東京都生活文化局都民生活部(東京都消費生活総合センター)

全ての都民が東京の発展に向けて参加・活躍でき、安心して暮らせる社会の実現に向け、外国人支援に関わる関係者が一堂に会し、顔の見える関係を構築し、情報提供の共有化と連携の強化を図ることを目的に外国人のニーズに合わせた支援の方策を検討するための連携推進会議を開催しました。



初めに、熊本地震現場からの学びとして、(一財)熊本市国際交流振興事業団 事務局長 八木浩光氏より外国人被災者の当時の状況や課題を共有頂き、その後に地域毎のグループに分かれてグループディスカッションを行いました。

「地域日本語教室と災害に強い地域づくり」をテーマに、普段の取組みから、課題、そして改善策についてディスカッションを行いました。

備えとして、日本語教室で災害時に使用する、普段は使わない災害時に頻出する単語を習うことまた、「やさしい日本語」の普及が必要という意見が多く見受けられました。

また、外国人が速やかに、正しい情報を得るためにも、日本語教室のボランティアとの繋がりが重要で、そうしたコミュニケーションを日常的にとることも必要であるという意見もありました。

こうした、有事のときではなく、平時に外国人支援に関わるステークホルダーが一同に会し、横の繋がりを持つという機会はとても重要であることをあらためて認識しました。

(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

URL <http://www.plaza-clair.jp> E-mail international_cooperation@plaza-clair.jp

○留学生が残りたい街、「別府市」。別府「のダイバーシティ」が進んでいる理由

日時: 2017年8月25日 場所: 大分県別府市役所、おおいた留学生ビジネスセンター

別府市は戦後の引揚者・負傷者の受入の歴史から、障がいをお持ちの方が今でも多く、毎年車椅子マラソンも開催しています。町のお風呂に行けば、障がいをお持ちの方が普通に、上手に生活している姿を子どもの頃から見て育っていて、「何かを排除する」という文化がない為、自然にダイバーシティが進んできたようです。

その様な土地柄の別府市に、アジア太平洋立命館大学(以下、APU)が設立され、今では80カ国近い国から留学生がやってきます。留学生達は別府が大好きで、別府に就職したいという学生が多く、就労支援にも力を入れています、全ての留学生が望むようには上手くいかないようです。

そこで、大分県が「おおいた留学生ビジネスセンター」を昨年11月にオープンし、「留学生」をキーワードに、「APUの現役留学生」、「APUの留学生OB」、「留学生とビジネスをしたい企業」なら誰でも使用できるインキュベーションセンターになっています。

すでに留学生が考案した大分県の名産品、シイタケを使用したスープが商品化されました。また、遠方へはるばる、鎌倉の企業がプロジェクトを立ち上げたり、別の企業ではドローンを使用した災害救助などに留学生の視点を取り入れています。

これからも「留学生」をキーワードに、更なるイノベーションと、ダイバーシティが深まっていくことが期待されます！



○今年はピコ太郎が登場！「グローバルフェスタJAPAN2017」

日時: 2017年9月30日～10月1日 場所: お台場センタープロムナード

今年も多くの方にご来場頂きありがとうございました。今年なんと、ピコ太郎が登場し、SDGsの実現に向けて、日本初公開「Public Private Action for Partnership (PPAP)」を披露してくれました。この2日間の来場者数は12万人以上と、大盛況に終わりました。



○難民ってどんな人？「日本にいる難民のQ&A -難民からみる世界と私たち-」

日時: 2017年9月29日 場所: 認定NPO法人難民支援協会

難民支援協会(JAR)は、難民が新たな土地で安心して暮らせるように支え、ともに生きられる社会の実現に取り組んでいます。

年間3,500件以上の相談に対して、専門的なスタッフが一人ひとりへ支援を行っています。それは、日本に行き着いた難民の方々の背景や、理由が様々で、一人ひとりが違う事情があるからです。

最近ではシリアや南スーダンなどの新たな危機の頻発や人道問題の長期化により、難民となる人は増えています。そして、遠い国の話ではなく、私たちの住む日本にも既に多くの難民の方がいらっしゃいます。

そこで、難民支援協会(JAR)では、「難民ってどんな人？」という疑問に答え、難民に対する正しい理解を持つことを願い、「日本にいる難民のQ&A -難民からみる世界と私たち-」を作成しました。世界で何が起り、なぜ難民が生まれてしまうのか、そして私たちは正しい認識を持ち、そのうえで何をすべきなのかが、このQ&A集をダウンロードして考えてみませんか？

ダウンロードはこちらから: <https://www.refugee.or.jp/jar/postfile/QA.pdf>



市民国際プラザ 平成29年度の予定(平成29年10月現在)

「平成29年度地域国際化ステップアップセミナー in 佐賀」を開催します！

次回のセミナーは多文化共生、「ダイバーシティ×担い手の育成」をテーマに、佐賀市においてセミナーを開催いたします。詳細はHP、Facebookで公開しています、ぜひご覧ください！

- ・日 時: 平成29年11月22日(水) 13:00～17:20 (受付12:30～)
- ・開催場所: 佐賀商工ビル 7階 会議室A(佐賀県佐賀市白山2丁目1-12)

市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために、
市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします♪
現在の市民国際プラザ「いいね！」数 **491件**



(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

URL <http://www.plaza-clair.jp> E-mail international_cooperation@plaza-clair.jp